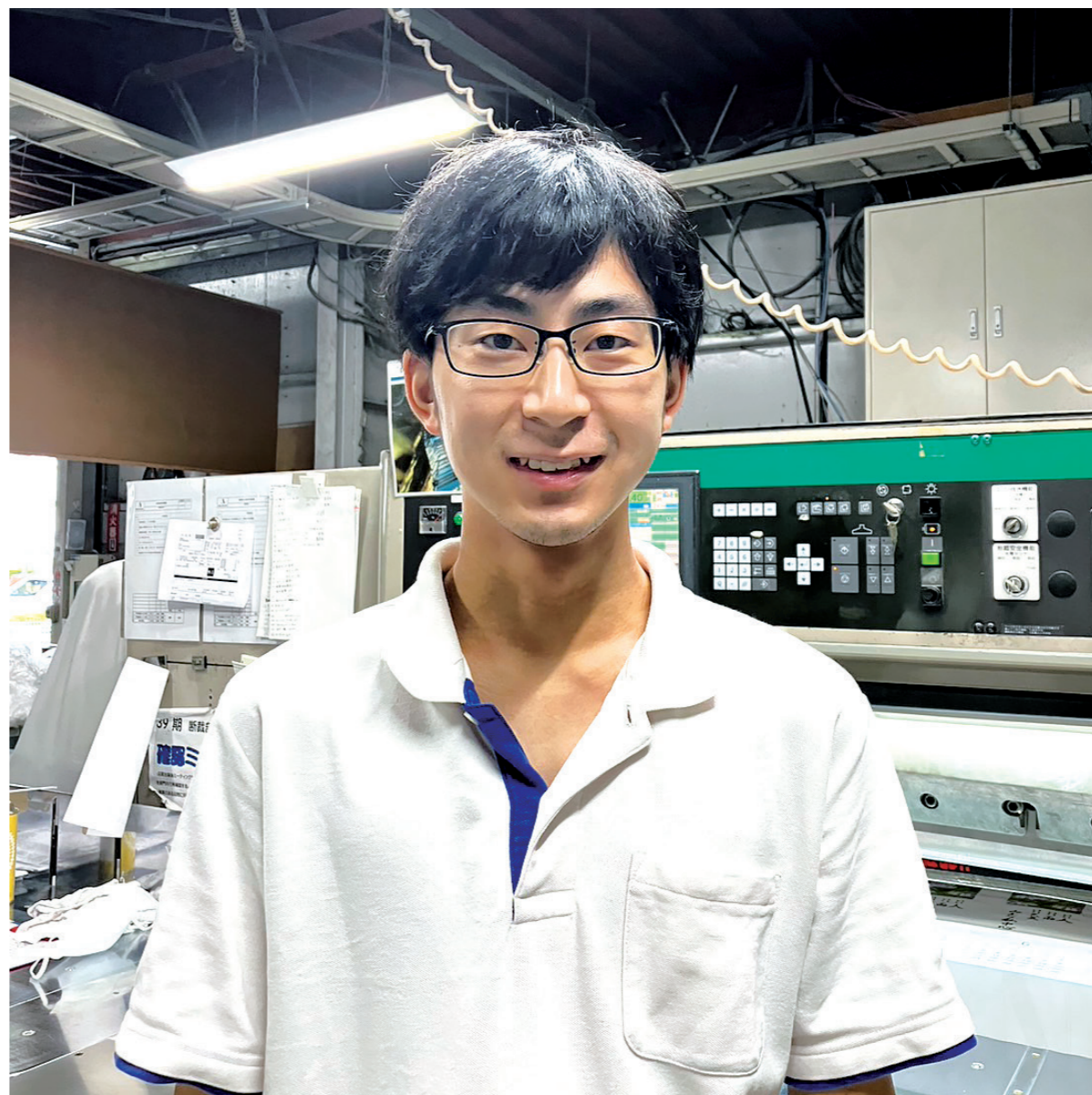


旭

印刷を支え加工を活かす

断裁部門 堀川 蓮華

今回スポットを当てるのは、2017年に旭紙工株式会社へ新卒入社した堀川蓮華さん。本工場の断裁部門に所属しており、カレンダーの断裁などを担当しています。堀川さんは、これまでどのような経験を積んできたのでしょうか。やりがいを感じる瞬間や失敗経験などを聞きつつ、今後の目標に迫ります。



「今までで一番やりがいを感じたのは、どのような仕事ですか。」

入社してから2年目のころ、2、3か月の期間をかけて、初めて断裁業務を最初から最後まで自身の手で完了させたときのことが印象に残っています。それまで扱いの困難な機械の操作は先輩たちの手順を見ながら学び、たまにその一部を手伝っていました。上司にアドバイスしてもらいながら進化したとはいえ、完遂できたときは大きな達成感を味わったものです。ようやくスタートラインに立てたような気持ちになりました。

「一方、忘れられない失敗経験はありますか。」

入社してまもなくの話です。当時の私は、先輩から断裁作業を教えてもらいながら、サポートに回っていました。その日も断裁を頼まれたのですが、私の確認ミスが原因で、カレンダーの上に置いてあった重石の文鎮に装置の刃を落としてしまい、機械を壊してしまったのです。その瞬間、血の気が引いていくのがわかりました。しかも、そのミスによっ

よく作業をこなし、少しでも会社に貢献すること。ゆくゆくは、断裁部門で一番早く仕事がこなせる人材になりたいと思っています。

断裁部門のエキスになれるよう、日々業務と向き合う堀川さん。これからもその前向きな姿勢で、旭紙工にとって必要不可欠な存在としての成長を支えていくでしょう。

て1か月の修理期間を要してしまっただけです。機械が1台動かなくなれば、その分ほかの装置の仕事配分が増えます。多くの方に多大な迷惑をかけてしまい、非常に落ち込みました。それでも先輩は、まず私が怪我をしていないかどうかを確認してくれました。何でも、ものさしを間違えて切る人はこれまで何人もいたようですが、文鎮を切ったのは私が初めてだったそうです。

この失敗を教訓に、現在も断裁を行う際には、刃の近くに事故につながる可能性があるものが置かれていないか、入念にチェックするようにになりました。もう二度とあんな失敗は繰り返したくありません。



「ほかにも、ミスを回避するためにどういう点を心がけているのでしょうか。」

先輩から「寸法を記載しておいたほうがいいよ」とアドバイスしてもらい、自分が行った採寸のデータはメモに残すようにしています。もし、最初の寸法を間違えてしまうと、最悪の場合は印刷からやり直しになり、余計なコストがかかってしまうかもしれません。メモを取り始めるからは、記憶違いを防げるようになりました。

断裁が始まってしまえば、頭を使うよりも集中力が必要になります。

何事も初めが肝心。万全に準備して、仕事に取り組むよう意識しています。

「どういう瞬間に、この仕事の面白さややりがいを感じますか。」

寸法を定める際に、トンボと呼ばれる目印を設置します。自分のセッティングによって装置の刃がぴたりとトンボに重なった瞬間は、何ともいえない気持ちよさがあります。働きはじめて7年目に入った今でも、重なった瞬間の嬉しさは変わりません。特に失敗しないか不安を感じているときに、トンボと刃が重なると喜びも2倍になります。

「最後に、今後の目標についてお聞かせください。」

1人で作業を任せられるようになって、4年近くの年月が経ちました。しかし、先輩たちと比べても、まだまだ仕事のペースは遅いと感じています。おそらく、寸法をセットする作業にだいぶ手こずっているからでしょう。

今後の目標は、今まで以上に効率



企業情報

- ◆ 創立年：1983年1月
- ※ 創業：1963年
- ◆ 年商：17億円
- ◆ 従業員数：200人



部署紹介

Department Introduction



技術開発部門編

2019年の社内報では「新しい人材を入れたい」と話していた中田さん。今回は良い報告があるようです！一方、コロナ禍を経て新たな課題も出てきました。技術開発部の4年間を追います。

技術開発部 課長
なか た けい いち
中田 圭一さん

技術開発部の「いま」

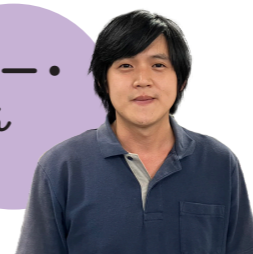
新メンバー加入！
新生・技術開発部として新たなスタート

2020年1月に、ベトナム技能実習生のチュンさんが入社しました！今までずっと河井専務と2人の部署でしたから、私に初めて部下ができた形になります。実は2019年にも実習生が配属されたのですが、残念ながらすぐに退職してしまっていました。チュンさんは日本にいる期間は特に決まっていなくて、じっくり仕事を習得してもらっています。



メンバー紹介

ルー・チー・
チュンさん



旭紙工に帰ってきた期待の星

もともとは、現場の実習生数人のうちの1人。そのときは機械のオペレーターとして従事していました。一度退職してベトナムに帰国したのですが、数年後「やはり日本で働きたい」ということで戻ってきたのだそうです。チュンさんは優しく物静かな性格で、難しい仕事にも素直に取り組んでくれる人。型抜きマシン「BOGRAMA」を担当してくれています。以前は私が扱っていた機械なのですが、今はほとんどチュンさんにお任せするようになりました。いなくなったら困る大切な存在です！

会社のまとめ役へシフト

以前から機械の開発や改造を担当していた河井専務ですが、チュンさんが配属されて人員に余裕ができてからは、会社全体に目を配る仕事が増えているようです。社長に次ぐナンバー2の存在として、社員が仕事に向き合う姿勢や働き方などについて考えてくださっています。

河井 健さん



技術開発部の歩み

2019年

2018年から行っていた工場移転に引き続き取り組んだ年でした。移転のほかにも、社内での設備の移動やレイアウト変更があり、忙しく動いていることが多かったように思います。個人的には、この年に課長に就任したため、責任が重くなった時期でもありました。

2021年

2020年からコロナ禍に入り、機械部品の値段が高騰。海外から届く電気部品の納品が滞ってしまいます。修理も開発も思うようにできず、歯がゆい思いでした。価格は今も上がる一方で、半導体不足もまだ続いています。

2020年

チュンさんが技術開発部へ配属。機械を触るのはほとんど初めてでしたから、1から教育を行い、専門用語もいくつも覚えてもらいました。私の指導を素直に受け入れてくれるところは良いのですが、遠慮していたのか、初めはわからなくても「はい」と言ってしまうことも……。繰り返し確認するよう気をつけていました。

2022年

会社全体でメンテナンスを励行する取り組みが、少しずつ根づいてきたのがこのころです。2019年の掲載時に「現場のメンテナンス意識の向上」を目標としていたため、2021年初頭にメンテナンス表を作成。各部門で表を見ながら実行してくれていますが、忙しいとおろそかになってしまうことも。リーダーの指導でメンテナンスを徹底してもらっています。

4年の間に あったトピックス

機械が横転！悲惨な光景は
夢に出るほど……

2021年に、瓜破工場で「断裁機を移動させたい」という話がありました。幅約3mの大きく重い機械だったため、技術開発部の3人でローラーに乗せて慎重に移動。しかし、移動先に着いてローラーを外そうとしたときに、バランスを崩して断裁機が倒れてしまったのです。幸い怪我人はいませんでしたが、その瞬間は頭が真っ白に。破損箇所は自分で修理をし、何とか事態を収拾させました。

その後は、機械を移動させるときはとにかく慎重に取り組んでいます。あのときの場面は今も頭に焼きついていて、夢に出たこともあります……。

今後の目標

柔軟に修理に当たるとともに、
各部門のスキルアップも図る

今は、現場での稼働率の向上に力を入れているところ。メンテナンスは現場に浸透してきていますが、修理が必要な際にはやはり私たち技術開発部が対応しているのが現状です。相変わらず部品不足は続いているが、ほかの部品で代用できるケースも少なくありません。広い視野を持てるように、アイデアの引き出しを増やしていきたいと思っています。

また、修理そのものを減らしていくため、現場全体のスキルアップにも取り組んでいきたいところ。技術開発部の人員が増えたため、修理のために機械を止める時間は短縮されましたが、今も以前の取材時と変わらず10件程度の修理が舞い込んでくる状況です。修理件数が減れば、新しい機械の開発にも取り組みます。いずれは現場で対応できるようになるため、各部門で学びを進めていければと思います。

メッセージ

このご時世、今も部品の値上げが止まりません。皆さん、メンテナンスを忘れずに！